

■ 共同研究班の概要 Summary of the Joint Research Group

班	基盤研究班（C班）
Group Category	Type C Research Projects(Basic Research Projects)
設置期間	2025年4月～2027年3月
Period of Activity	April 2025 – March 2027
研究課題名	チベットにおけるコミュニケーションツールの研究 ―書簡文化の歴史の変遷と現代的意義―
Research Topic	A study of communication tools in Tibet: Continuity, transition, and expandability of the letter culture in Tibet
研究目的の概要 (400字程度)	B班「チベットにおけるコミュニケーションツールの研究―書簡文化の歴史の変遷と現代的意義―」（2022年4月～2025年3月）の継続班。 チベットにおける書簡には、インド仏教由来の韻文で綴ったスタイルによる手紙と散文で書かれた手紙の二種類がある。このうち、第二の手紙群には、高僧の手になる手紙や政治文書における手紙などのほか、寺院への支援物資に添えた手紙、古代チベット帝国期の通達文書など様々な書簡が含まれる。これらのチベット語書簡は、書かれた時代や目的のみならず、書き手の立場や社会背景、書体や書式スタイルに至る諸要素において異なる性質を持っている。本研究では、様々な性質を持つ書簡を通覧し分析することで、チベットにおける書簡の類型化に取り組み、その意義を検証する。また、現代社会には書簡のみならずeメールやSNS等のコミュニケーションツールが存在する。これらのツールと書簡との関連や相違を明らかにし、現代社会における書簡の位置付けについて考察する。歴史の当事者たちが綴った文字資料であり、正しく扱えば有益な史料となる書簡を分野横断的かつ通時的に比較・分析し、現代のツールと付き合わせることで、コミュニケーションツールの一媒体である書簡の役割を歴史的文脈で再検証し、複眼的視点からチベット社会を見直すことが本研究の主たる目的である。
Summary of Objectives (Approx. 400 characters)	There are two types of letters in Tibetan civilization: letters as literature written in verse based on the Indian Buddhistic style and letters as correspondences written in prose. The second group includes various sub-types of letters written by priests, political documents, letters attached to relief supplies to temples, etc. Characteristics of these letters vary in the period, purpose and the writer's social background, which represents style and format. This study will examine the historical significance of letters in Tibet by classifying and analyzing letters belonging to various periods. This study will also discuss the position of letters in modern Tibetan society by comparing the characteristics of letters to alternative communication tools such as e-mail and SNS. Through these attempts, this study will examine the role of letters as a medium of communication in a historical context and review Tibetan society from a multifaceted perspective.
研究会開催予定等	年10回 土 14：00～17：00
Planned Meetings, etc.	10 Times / Year, Saturday 14:00-17:00

■ 班員名簿 Member List

最終更新日：2025年6月6日
Last Update：June 6, 2025

No	班長・副班長	氏 名	区分	所属 ・ 職名	専門分野	共同研究における役割分担 (30字程度)
No	Coordinator / Deputy Coordinator(s)	Name	Category	Affiliation / Position	Field of specialization	Division of Roles within the Group (Approx. 30 characters)
1	班長	池田 巧	所内	・教授	シナ・チベット 語方言史	チベット語書簡における漢語からの影響
2		稲葉 稔	所内	・教授	西南アジア史	西南アジア史における書簡の検証
3		中西 竜也	所内	・准教授	中国イスラム史	チベット東部におけるチベット・イスラーム文明間交渉における書簡の検証
4	副班長	西田 愛	学内（法人 内）	白眉センター・人文研・特 定准教授	古代チベット史	古チベット語書簡の分析
5		海老原 志穂	学内（法人 内）	白眉センター・文学部・特 定助教	チベット語方 言、チベット現 代文学	現代チベットの文学作品における書簡の分析
6		井内 真帆	学内（法人 内）	白眉センター・文学部・特 定准教授	中世チベット史	11～12世紀のチベット語書簡の分析
7		小西 賢吾	学内（法人 内）	人と社会の未来研究院・特 定准教授	文化人類学、ボ ン教研究	現代チベットの僧院における書簡の分析
8		星 泉	国立大学	東京外国語大学アジアア リカ言語文化研究所・教授	チベット語・チ ベット文学	現代チベットの文学作品における書簡の分析

№	班長・副班長	氏 名	区分	所属 ・ 職名	専門分野	共同研究における役割分担 (30字程度)
№	Coordinator / Deputy Coordinator(s)	Name	Category	Affiliation / Position	Field of specialization	Division of Roles within the Group (Approx. 30 characters)
9		根本 裕史	国立大学	広島大学大学院文学研究科・准教授	チベット仏教思想・古典詩	チベット古典文学における書簡の分析
10		山本 達也	国立大学	静岡大学人文社会科学部・准教授	チベット難民社会の芸能	難民社会における書簡の分析
11		小林 亮介	国立大学	九州大学比較社会文化研究院・准教授	チベット近代史	ダライ・ラマ政権時代のチベット語書簡の分析
12		岩田 啓介	国立大学	筑波大学人文社会系・助教	清代モンゴル・チベット史	清代のチベット語書簡の分析
13		長岡 慶	国立大学	東京大学・日本学術振興会・特別研究員 (RPD)	チベット医療・人類学	チベット文化圏におけるコミュニケーションの諸相の分析
14		岩尾 一史	私立大学	龍谷大学文学部・教授	古代チベット史	古チベット語書簡、唐代中国の書簡の分析
15		大川 謙作	私立大学	日本大学文理学部・教授	チベット現代史	近現代の政治文書における書簡の分析
16		別所 裕介	私立大学	駒沢大学総合教育研究部・准教授	宗教人類学	現代チベットの村落間交渉における書簡の分析
17		山本 明志	私立大学	大阪国際大学経営経済学部・准教授	モンゴル時代におけるチベット史	13～14世紀のチベット語書簡の分析
18		小野田 俊蔵	私立大学	佛教大学・名誉教授	チベット仏教文化	チベット仏教僧による書簡の分析
19		三宅 伸一郎	私立大学	大谷大学・教授	ボン教史	書簡見本集の分析
20		小松原 ゆり	私立大学	明治大学文学部・非常勤講師	チベット史・清朝史	清代のチベット語書簡の分析
21		村上 大輔	私立大学	駿河台大学現代文化学部・准教授	チベットの民間信仰	現代ラサにおける書簡の分析
22		加納 和雄	私立大学	駒澤大学仏教学部・准教授	インド・チベット仏教	梵文書簡のチベットへの影響の分析
23		池尻 陽子	私立大学	関西大学文学部・准教授	清・モンゴル・チベット関係史	清代の僧院におけるチベット語書簡の分析
24		旗手 瞳	私立大学	龍谷大学・日本学術振興会・特別研究員 (PD)	チベット古代史、吐谷渾史	古チベット語書簡、唐代中国の書簡の分析
25		ガザンジェ	独立行政法人等公的研究機関	東洋文庫・日本学術振興会・外国人特別研究員	社会人類学・近代チベット社会変遷史	近代チベット社会におけるコミュニケーションの諸相の分析